

平成 23 年度第 2 回生きがい・介護予防分科会 会議録

1 開催日時

平成 23 年 7 月 27 日 (水) 18:30 ~ 20:00

2 開催場所

北九州市役所 9 階 91 会議室

3 出席者等

(1) 委員

山崎分科会長、橋元副分科会長、井手委員、伊藤委員、江口委員、桑原委員、座小田委員、田中委員、長野委員、古市委員、力久委員
欠席者 永田委員

(2) 事務局

地域支援部長、介護保険・健康づくり担当部長、健康推進課長、高齢者支援課長、健康づくり担当課長、健康づくりセンター担当課長、介護保険課長、計画調整担当課長、健康推進課健康づくり係長、高齢者支援課いきがい係長 ほか

4 会議内容

(1) 議事

第三次高齢者支援計画における生きがい・介護予防施策について

ア 第三次高齢者支援計画の基本的な考え方(素案)

- ・概要
- ・各論
- ・第二次高齢者支援計画の進捗状況

イ 生きがい・介護予防施策の方向性について

ウ 介護予防事業について

- ・介護予防事業の概要と介護保険法改正の趣旨について
- ・二次予防事業について
- ・一次予防事業について

エ 生きがい・社会参加・地域活動の推進について

(2) 報告事項

「地域ふれあいトーク」「関係団体の意見を聴く会」の開催について

5 会議経過及び発言内容

(1) 議事

第三次高齢者支援計画における生きがい・介護予防施策について

ア 第三次高齢者支援計画の基本的な考え方(素案)

- ・概要・・・資料 1-1
- ・各論・・・資料 1-2

・第二次高齢者支援計画の進捗状況・・・資料1 - 3

イ 生きがい・介護予防施策の方向性について・・・資料2

ウ 介護予防事業について

・介護予防事業の概要と介護保険法改正の趣旨について・・・資料3 - 1

・二次予防事業について・・・資料3 - 2

分科会長：第三次高齢者支援計画では、北九州市を先進福祉都市とし、高齢者が自宅で最後まで尊厳を持って安心して暮らせる地域づくりのための基本的計画、言い換えれば地域包括ケアシステムの整った地域づくり・まちづくりを進めていくための計画づくりを行うことが重要であり、当分科会は、その下での生きがい・介護予防に関する施策・計画のあり方について議論していく。第1回分科会では、この分科会で議論する領域の確認を行ったが、今回は第二次高齢者支援計画の成果と課題の報告を受けた後、第三次計画の基本的な考え方や生きがい・介護予防施策について議論していきたいと思う。

それではまず、第二次高齢者支援計画の成果と課題（資料1 - 3）について、説明した内容についてご意見等はないか。

委員：がん検診や特定健診の受診率は目標値と差があるが、実施状況はどうなっているのか。

健康推進課長：がん検診も特定健診も、目標値は国が全国一律に定めたものに基づいている。全国的に見ると、がん検診は政令市では下位に位置しているが、特定健診は政令市6位（暫定）となっている。

委員：軽度認知障害（MCI）のスクリーニング検査を受けた人数が増えてきているが、高齢化の進展によってMCIの増加が見込まれる中、入り口のスクリーニングは大変重要になる。これについてはどのようなことを考えているか。

高齢者支援課長：MCIのスクリーニングは平成21年度後期からスタートし、徐々に参加者も増えてきた。できるだけ多くの方に参加していただけるよう、事業拡大を図っているところである。

委員：地域包括支援センターの集約の話聞いたが、これはサービスの後退ではないのか。

地域支援部長：職員の区役所への集約については、地域包括支援センターの場所も看板も変わらないが、区役所に職員を集約し、地域包括支援センターには最低1名が常駐する形をとることになった。市民の方から相談があれば区役所から直接出向くので、利便性は今までより悪くなることはないと考えている。

分科会長：地域包括支援センターはますます重要になってくる。

委員：老人クラブの会員数や年長者いきいの家の利用者数が減っているが、高齢者人口が増えているのに数が減るといのは、利用者が固定して新しい方が入りにくい状況にあるのではないか。

いきがい係長：老人クラブの会員数減少は全国的な傾向であるが、会員数や年長者いこいの家の利用者数の減少は、年金の支給年齢の引き上げ等で働く高齢者が増えたことや、会員の平均年齢の高齢化等が影響していると考えられる。

委員：老人クラブは確かに平均年齢が高齢化しており、若い人が入らない理由としては、仕事をしている高齢者の増加、70歳になっても自分は元気だから老人ではないという意識などがあると思われる。現在、全国的に若手リーダーの育成を盛んに言っており、北九州市老人クラブ連合会でも若手リーダー育成のための専門部会を設けている。勧誘だけでなく、行事に体験的に参加してもらうなどの形で若い人に関心を持ってもらえればと考えている。

分科会長：70歳になっても若いという意識は大きいと思う。「老人クラブ」という名称や、老人クラブに入って自分たちの目指そうとしているものが実現できるのかといった点も含めて考える必要があるように思う。

委員：会員拡大や若手の育成は、老人クラブの人たちだけではなく、周りもサポートしたり勧誘に協力したりできるのではないかな。

委員：若手が同世代の人を活動に誘うことが大事だと考えている。老人会という言葉に対しては確かに抵抗のある人も多く、地域によっては通称をつけたりもしているが、老人福祉法との関係もあって名称を変えるのは簡単ではない。

委員：今は多様な意識の時代であり、老人クラブ以外にもNPOやボランティア活動など、高齢者の活動は様々な形で広がっている。

分科会長：確かに、この点については、多様なあり方を求めているという状況を含めて考えていく必要がある。

それでは次に、第三次高齢者支援計画の基本的な考え方（素案：概要）（資料1-1）について、ご意見等あればお願いしたい。

委員：社会参加のための人材育成・環境づくりということだが、具体的にどういった場所でどういった人が活動するかが大事である。健康づくり推進員のように具体化してはどうか。

MCIは認知症ではないが、計画上は介護予防に入るのか、それとも認知症対策の一環で扱うのか。

健康づくり担当課長：当分科会が担当する介護予防は生活機能の低下を対象にしているので、認知症リスクについてもその視点で見えていくことになる。疾病としての認知症・MCI対策については、まず認知症対策の分科会でと考えている。

委員：資料を見ていると、北九州はいろんな施設やプログラムが充実していると感じるが、これらの情報が市民に広がっていない。市政だよりだけではなく、例えば消防の災害情報のようなメール配信やインターネットを使って、体操やイベントの情報提供を行ってはどうか。

分科会長：市民への情報発信は非常に難しい問題ではあるが、次期計画の中で新しく取り組む

ことは何かあるか。

計画調整担当課長：高齢者支援計画に限らず、市の様々な計画について、市民に情報がうまく伝わっていないという問題がある。市政だよりやインターネットなども活用しているが、それが結果的に市民に行き渡っていない。より細かく、どんな対象の方がどんな媒体を使っている、だからここにこういう媒体を使うといった分析をするなどの工夫をしていく必要がある。情報をどう伝えるかは大事な課題と考えており、次期計画策定にあたってはその辺りを検討していきたいと考えている。

委員：団塊の世代の人たちは、インターネットができる人が多い。そういう意味で、消防局の災害情報のように自然に向こうからメールが来るような形になってはいるか。

計画調整担当課長：ホームページの活用は行っているが、メーリングリストといった形で送るところまではやっていない。もう少し積極的にアプローチするといった工夫は必要だろう。

健康推進課長：広報室では、登録制ではあるが市政だよりに掲載されているような情報をメール配信する仕組みがある。ただし、そういった仕組み自体が市民に届いていない可能性がある。やはり必要な情報をどう隅々まで届けるかという課題はある。

分科会長：情報提供のあり方はどこの団体や機関も悩んでいる問題だが、いろんな工夫がなされていることはわかった。

委員：基本的な考え方の「生きがい・社会参加・地域活動の推進」の項目は、「社会参加のための人材育成・環境づくり、多様で主体的な社会貢献活動の促進、教養・文化・スポーツ活動の促進」という流れになっているが、生涯学習に関して活動しているときに感じるのは、まずは学習者やスポーツ活動者の拡大を図り、その方たちが中心となって社会貢献の中核になるような育成をする、そういう順番があるのではないかということ。一気に人材育成をしようとしても難しいので、まずは教養・文化・スポーツ活動の促進からではないか。

分科会長：参考にしていきたい。

次は第三次高齢者支援計画の基本的な考え方（素案：各論）（資料1-2）だが、これは概要の詳細版なので、概要が問題なければこちらも問題ないかと思う。その次は生きがい・介護予防施策の方向性について（資料2）、これも特に質問等なければ、介護予防事業の概要と介護保険法改正の趣旨について（資料3-1）、これは介護予防事業の位置づけや介護保険法の改正点について説明したものだが、法改正では地域包括ケアの推進が大きなポイントになっている。介護予防や生きがい・社会参加についても、この地域包括ケアシステムの中で考えていくことが重要になる。次が二次予防事業について（資料3-2）、これは対象者の増加に伴ってプロセスは簡素化されるが必要な支援はしっかり行っていくこと、また複合型のプログラムを計画に組み込んでいくという提案だったが、質問等あればいただきたい。

委員：複合型プログラムの中で認知症やMCIの予防・対策を実施してはどうか。

委員：複合型プログラムについては、単独プログラムよりも改善度が高いという研究も出てい

る。現行の事業がうまく行くように注意しながら進めていっていただきたいと思う。

委員：65歳以上の高齢者への基本チェックリストの発送を2年に分けるということだったが、65歳以上は一律か。短期間に身体状況の変わる後期高齢者も2年に1回でいいのか、考えがあれば伺いたい。

健康推進課長：年齢によって送付頻度を変えることは今のところ予定していない。一斉送付については2年に1回にさせていただきたいと考えているが、例えば要介護認定を受けていた方が非該当になった場合はハイリスク者として扱うよう国から指針が出ているし、従来から地域のつながりの中での把握や二次予防事業参加者の情報の活用なども行っている。

委員：今説明のあった、2年に延ばすだけでなく二重にスクリーニングをかけていくという点を説明に加えていただけるといいと思う。

分科会長：一斉に送付するだけでなく、個別のケースに合わせてやっていくということで、質的には高くなるのだから、それがわかるような説明を計画の中でしていただきたい。

委員：先ほど、情報提供の方法としてインターネットもあるという話だったが、自分が今関わっている二次予防事業の口腔機能向上の教室に参加している人たちは、自分でネットを駆使して情報収集できるような人たちではない。逆に、積極的に動く人たちは自分の体の問題点に気づいていない、実践につながりにくいと感じる。市がいい事業をやっても実際に活用されない、そういう問題に対して様々な提案をしていくのがこの分科会の役割と考えた。

口腔教室は今のところ順調に進んでいるが、教室に通っているときはよくても、卒業後に行くところがないという問題がある。

分科会長：その辺りのフォローアップについてはどう考えているか。

健康推進課長：今ご指摘のあった点は、口腔機能低下に限らず運動器の機能低下や低栄養についても大きな課題になっている。次回の分科会では個別事業のメニューをお示しする予定だが、二次予防事業卒業後のフォローは大きなテーマと考えている。卒業後もずっと行政主導の事業で受け入れるように作り続けることは事業を受託できる事業者の数やコスト面等で限界があるため、生きがい・社会参加という視点も含め、地域の方々にリーダーになっていただき、専門家と一緒に様々な支援していただく、そういうネットワークづくりを次期計画の大きな焦点として提案させていただきたいと考えている。

分科会長：全体として、最終的な計画の骨組みが示され、その中で今回はここの議論をというものが見えやすくなると、分科会でも議論しやすくなると思う。

健康推進課長：先ほどお示しした基本的な考え方の基本目標や施策の方向性、基本的な施策を骨組みとし、これが概ねこの形でいいということになれば、次は主だった事業、特に新規や拡充の方向で考えている事業等の案をお出ししたいと考えている。

委員：大震災もあり、何かしてもらいよりも自分たち自身が何か考えないといけないという方

向が大事だと思う。基本チェックリストにしても、個人的にはそこまでお金をかけてやる必要があるのか、個人の問題ではないかを感じる。

分科会長：支援のあり方は対象者によると思う。自分で情報収集したりトレーニングしたりできない人に対しては何らかの形でケアする必要があるが、社会参加や生きがいづくりについては基本的に自分のできることをやっていただきたいということだと思う。行政に何もかもやってほしいでは、北九州市は先進的な福祉都市にはならない。

ウ 介護予防事業について

・一次予防事業について・・・資料3-3

エ 生きがい・社会参加・地域活動の推進について・・・資料2(再)

健康推進課長：先ほどハイリスク者の受け皿の話をしていただいたが、ハイリスクがあるままの状態の方を地域で支援してほしいという趣旨ではなく、ハイリスク者はきちんと専門家が関わる必要があると考えている。ここで示しているのはあくまで一次予防、基本的には元気な方々の健康維持をベースにした地域での健康づくりのイメージ図とご理解いただければと思う。

分科会長：これについては、中身をどうより豊かにしていくか、市民あるいは地域の側の頑張りの問題ということになるかと思う。

委員：図の中に「健康マイレージを通じた地域づくり」とあるが、「健康マイレージ事業を通じた健康づくり」とした方がいいと思う。その他の資料についても、文言使いについては今一度確認をお願いしたい。

(2) 報告事項

「地域ふれあいトーク」「関係団体の意見を聴く会」の開催について・・・資料4

分科会長：以上で本日の会議を終了したい。最後に、事務局から伝達事項があればお願いします。

健康づくり係長：次回の分科会は9月下旬以降を予定している。その中で第三次高齢者支援計画の個別事業案についてご議論いただき、必要があれば再度分科会を開催した上で、報告案を本委員会に報告したい。

分科会長：これで閉会とする。